

[社 会]

民主主義の見方・考え方を生かし、選挙に参加しようとする 意識を育成する社会科授業

－民主主義を捉え、選挙の重要性を実感する単元の学習を通して－

清水 正太*

1 研究の目的

2016年から選挙権年齢が18歳に引き下げられ、主権者教育の一層の充実が求められている。主権者教育に関しては、生徒が選挙権をもつ高等学校段階だけではなく、小学校・中学校段階からも一層の充実が求められている¹⁾。主権者教育推進会議²⁾は、主権者教育をめぐる課題として、18歳から20歳の投票率の低下を挙げている。投票という行為を主権者教育の「出口」であると示した上で、主権者教育として必要な資質・能力の育成が、今後の投票率や投票の質に繋がることが期待している。上記の指摘から、社会科教育の中で、民主主義社会を主権者として担うことになる生徒の選挙への参加意識を高めていくことは、課題となっていると考えられる。

そこで、私の担当する3年生のあるクラス（以下Aクラスとする）に、表1のアンケートを実施した（後述）。アンケート①の「悪いところがない」、「良いと習った」、「納得できそう」といった意見から、民主主義を肯定的に捉えているといえる。また、アンケート②の、「興味がない」、「面倒くさい」、「今のままでよい」といった意見から、選挙を否定的に捉えていると推察される。これらから、民主主義社会を肯定的に捉えてはいるが、選挙への参加意識は低く、課題になっているといえる。では、これまで、選挙への参加意識を高めるためにどのような実践が行われてきたのか。例えば、選挙への参加意識を高めるために、模擬選挙の実践が行われることがあった³⁾。一方で、公民的分野の単元開発を研究している、桑原敏典⁴⁾は選挙に関する学習は模擬選挙で実践的になったが、選挙の民主政治における役割など、選挙の本質的な理解を促す授業への注目は後退しているように思われると述べた上で、選挙を扱う際の方針として（イ）選挙の手続きではなく、選挙の民主政治における位置づけなど、その本質的理解を目指すこと。（ロ）選挙の制度や仕組みの理解ではなく、投票をはじめとする政治参加の意義や方法の理解を目指すこと。（ハ）次の選挙の際の投票参加を促す教育ではなく、継続的な政治参加を促すこと。の3点を指摘している。この意見には、筆者も賛成である。そこで、筆者は生徒の民主主義の捉えと選挙への参加意識に着目した。桑原の指摘を踏まえると、選挙の手続き的な知識だけでなく、生徒が捉えた民主主義の見方・考え方を生かし、それを支える選挙に価値を見出すことが、参加意識の向上に必要なと考えられる。それによって、民主主義を支える選挙の重要性に気付き、選挙への参加意識が高まるだろう。

そこで、本稿は、民主主義の見方・考え方を主体的に習得し、民主主義の概念を捉える単元の学習を構成する。そうすれば、民主主義について習得した見方・考え方を生かして、選挙の重要性に気付くことができる。それによって、選挙への参加意識が高まるだろうということを、実践後の抽出生徒の記述の質的な変容から明らかにする。

2 研究の方法

本稿では、生徒に獲得してほしい民主主義像を、「国民自身が自らを統治できる制度であり、他の政治制度よりもより多くの意見を集めることができる。そのため、国民全体の意見を政治に反映させやすい、公正な制度である。」とする。また、選挙像について、「わが国の採用する民主主義の制度である間接民主制を支える上で、自らの意見を政治に反映させる重要な権利であり、国民の意見を政局に届ける価値のある制度である。」とする⁵⁾。これらに類似した概念を獲得することができれば、民主主義の良さを捉えたことにより、それを支えるのが選挙であるという繋がりに気付くだろう。それにより、選挙が重要だと感じ、参加意識は高まると考えられる。そのために、以下の手立てを用いた実践を行う。

*新潟市立白根第一中学校

(1) 主体的に民主主義の見方・考え方を習得し、獲得してほしい民主主義像に迫る工夫

知識注入型の暗記では生徒の見方・考え方を育むことはできない。民主主義の見方・考え方が不十分な場合、選挙の重要性に気付かない恐れがある。一方で、生徒が主体的に民主主義の見方・考え方を習得することができれば、民主主義像の概念を捉えることができるだろう。それにより、選挙の重要性を考える際に、民主主義の視点から価値付けを行うことができると考えられる。生徒の主体的な学びを促す単元の構成について研究をしている秋田真⁶⁾は、「獲得した知識や学習者の経験知と提示された資料との落差が大きければ大きいほど、知的好奇心が刺激され主体的な学びにつながる。」と述べている。本実践では秋田の視点をを用いて、イギリス首相のチャーチルの言葉⁷⁾を用いて、生徒の民主主義観に揺さぶりをかける。そこから、複数の政治制度から、政治の目的を達成するためにはどの制度が適切なのかを考察する。このように、あえて批判的に民主主義を捉える活動を設定することにより、再度、民主主義について考える必要性が生まれる。それにより、複数の政治制度の長所と短所を踏まえた上で、民主主義を判断しなければならない。その過程で、民主主義に対する考察が促され、民主主義像が育まれるだろう。よって、民主主義の見方・考え方が不十分な生徒に対して、本手立てを用いれば、生徒は主体的に民主主義に対する見方・考え方を習得し、民主主義という概念を捉えることができると考えられる。それにより、獲得してほしい民主主義像に迫れるだろう。

(2) 選挙に参加することの重要性に気付き、価値を実感するための工夫

民主主義の見方・考え方を習得し、良さを実感しても、毎時間の授業に繋がりがなければ、見方・考え方を有効に活用することができない。それでは、選挙の説明的知識を網羅するだけになり、選挙の重要性に気付き、参加意識に繋げることは難しい。そのため、1単位時間で取り扱う社会的事象が、民主主義の見方・考え方をを用いて相互に有機的に関連付けられ、選挙の重要性の気付きに繋がる単元デザインをする必要がある。よって、本実践では、選挙に行くことの重要性を実感するように、単元構成の工夫をする。単元の課題の解決のために、導入で習得した見方・考え方を主体的に用いて、毎時間の授業の学習課題を解決していく。また、パフォーマンス課題では、単元の学習を生かして、選挙に価値付けをする時間を設定する。このような、構造的な単元の学習で、民主主義の見方・考え方を主体的に捉えた上で、選挙について考えることができれば、選挙の重要性に気付き、価値を実感する。それにより、獲得してほしい選挙像を獲得し、参加意識の向上に繋がるだろう。

3 授業の実際⁸⁾

(1) 生徒の実態

本研究は、令和3年度にAクラス（男子16名：女子19名うち、長期欠席1名）を対象に中学校社会科公民的分野の学習で行った。

表1がアンケート調査の結果である。本実践では、生徒A～Dの4名を抽出した。本実践は、クラス全

体の質的な変容を見取るのではなく、4名に絞って分析をする。クラス全体の分析は、本稿の紙幅では困難を伴い、分析が希薄になる可能性がある。そのため、今回は、実践前と実践後の記述の質的な変容を詳細に分析し、本実践が有効であったかを明らかにするために適切であろうと考えられる4名に人数を絞った。抽出生徒は、民主主義を肯定的に捉えているものの、選挙への参加には否定的な回答をした生徒からランダムに抽出した。本実践では、クラス全体での学習を通して、学びを深めた4名の生徒の記述内容が質的にどのように変容したかを見取る。

A・Bの生徒は、民主主義を過去の学習から良いと思っているが、主体的に見方・考え方を獲得できておらず、「悪いところが分からない」や「習ったから」というように、主体的に民主主義像を概念として捉えられていない。また、無批判に肯定的に受容している様子も見られる。C～Dの生徒は、獲得してほしい民主主義の理想像に近い回答をしているが、選挙への参加とは結びついておらず、選挙への参加に消極的な意見を述べている。そのため、実践を通して、それぞれの生徒が捉えた民主主義像を基に、選挙の重要性に気付き、参加しようとしている姿を目指す。

① 単元名 民主主義と選挙

② 目標

選挙の意義について、単元を通じて習得した民主主義に対する見方・考え方を基に考える学習を通して、民主主義を支えるために重要であるということに気付き、民主主義を支える選挙に行こうとする気持ちを表現することができる。

表1 民主主義と選挙についての意識調査（自由記述）

① あなたは、民主主義を良いと思うか
・生徒A：民主主義の悪いところが分からない。
・生徒B：今まで良いと習ってきたし、自由と平和が保障されると思うから。
・生徒C：自分たちのために政治を行うことができるから。
・生徒D：みんなで話し合っ、代表が物事を決めた方が納得できそうだから。
② あなたは、将来選挙に行きたいと思うか
・生徒A：政治にも投票にも興味がないから行きたいと思わない。
・生徒B：面倒くさいし、行っても変わらないと思うから。
・生徒C：行かなくても、今のままで十分住みやすいから。
・生徒D：自分の考えとかは特にないので、行こうと思わない。

③ 単元設定の理由

本単元では、民主主義と選挙の関係性を取り扱っていく。生徒は、政治の目的である「社会にあるさまざまな意見の対立を、公共の課題として考え、調整して社会を成り立たせる。」を達成するためには、民主主義が重要であることを学ぶ。日本の採用する間接民主制は、直接民主制と違い、選挙で代表を選ぶ。間接民主制を採用する我が国の選挙は、間接民主制を支えるために多様な制度を整備している。また、政党やマスメディアも選挙を支える上で、重要な要素になっている。一方で、近年は間接民主制の根幹といえる選挙の投票率が減少し、問題となっている。このまま投票率の低下が続くと、世代間により不公平感が生まれやすくなり、圧力団体の利益が優先されたりするなどの問題が生じる。

生徒は、本単元を学習することにより、我が国の採用する間接民主制を支えていくには、選挙への参加が必要であることを学ぶことができる。また、自分たちの権利を守り、より良い生活の向上を目指すには、選挙で権利を行使することが大切であることも学ぶ。よって、本単元は、民主主義の見方・考え方を習得し、選挙に価値付けを行って、投票への参加意欲を高めるには最適な単元であるといえる。

④ 単元の指導計画

「学習課題」 ○ ねらい
第1・2時 「民主主義は本当に最悪なのだろうか」 ○ 民主主義の特色について、複数の政治制度のメリット・デメリットを踏まえて、政治体制の適否を考察する活動を通して、民主主義の良さについて自らの言葉を述べるができる。
単元の課題「民主主義をより良くするためには、何が必要なのだろうか」
第3時 「選挙に様々な投票の仕方があるのはなぜか」 ○ 日本の選挙制度の特色について、選挙制度をまとめ、多様な政治制度がある意味を考える活動を通して、民主政治に必要な民意を最大限尊重しようという工夫が見られることを理解する。
第4時 「政党があるるとどのような良いことがあるのか」 ○ 政党政治の特色について、日本の政党を調べ、自らが投票するときどのようなメリットがあるかを調べる活動を通して、国民は政党政治を通して政治や生徒に参加しやすくなることを自らの言葉で表現できる。
第5時 「マスメディアの報道が違うことは良いことなのだろうか」 ○ マスメディアの報道の必要性について、複数の新聞社の記事の共通点や相違点を多面的・多角的に比較する活動を通して、様々な意見が報道されることにより、国民が政治をより判断しやすくなることを自らの言葉で表現できる。
第6時 「日本の選挙にはどのような課題があるのだろうか」 ○ 日本の選挙の課題について、ニュースや新聞記事からまとめる活動を通して、様々な課題を解決するために必要なことを自らの言葉で表現することができる。
第7時 「民主政治をより良くするにはどのようなことが大切なのか」 ○ 民主政治をより良くすることについて、単元の学習を踏まえてパフォーマンス課題に取り組む活動を通して、民主政治を支えるためには選挙に参加して、自らの意見を反映させていく必要があることを理解する。

(2) 実践内容

① 1～2時間目の様子

本単元の導入にあたる1, 2時間目の授業では、研究方法の(1)の手立てを用いて、生徒の民主主義観に揺さぶりを掛け、疑問を喚起するための活動を行った。この活動により、生徒の思考の中で、民主主義を批判的に捉え直し、考察する必要性が生まれる。導入で、チャーチル首相の言葉を紹介した。この言葉により、民主主義を良いと思っていた生徒は、自らの認識とギャップが生じた。そのため、批判的に民主主義を考察する意欲が生まれた。民主主義は良いと思っていた多くの生徒から、「民主主義が悪いはずがない。」「民主主義が悪かったら何が良い制度なんだろう。」と多くの疑問の声が挙がった。そこで、生徒の声を生かして、学習課題を設定した。展開では、「チャーチルよ聞け、我らはこう思う」というパフォーマンス課題を設定し、政治の目的を確認した後に、班で「専制政治」、「直接民主制」、「間接民主制」のメリット・デメリットを資料から調べた。その際には、タブレット端末を用いて、ロイロノート上のシンキングツールを用いてまとめを行った。個人でまとめた各政治制度のメリット・デメリットを基に、図1のクラゲチャートを使ってチャーチルを論破するために意見作りを行った。事前の調べ学習の成果を生かし、生徒は多面的・多角的に政治制度を捉え、政治の目的達成のために最適な政治制度は何かを考察していた。また、考察に際しては、効率と公正を意識することを教師から声掛けして支援した。その後、作成した意見を班で共有し、個人の意見を踏まえて班

全体の意見を作成し、発表を行った。どの班も、政治の目的を達成するためにはどの政治制度が一番良いかを意欲的に追究した。最終的には、全ての班で間接民主制が一番良いという結論に至った。まとめでは、各班の発表を踏まえて、個人でまとめを書き、クラス全体で共有した。その結果、図2のまとめをクラス全体で共有した。意見を見ると、間接民主主義を公正と効率の観点から考察し、国民の意見を反映させることができ、自分たちで政治ができる良さがあるという見方・考え方を習得できたことが分かる。これにより、クラス全体で民主主義に対する見方・考え方を再認識すると共に、生徒が主体的に民主主義の良さを捉えることができた。また、生徒から、民主主義がベストではなく、ベターならば、どうやってベストに近づければ良いのかという疑問が出された。その疑問の声を生かして、単元の学習課題を設定した。

② 3～6時間の様子

手立ての(2)を踏まえて、導入で習得した見方・考え方を基に、毎時間の学習課題を解決した。また、単元の学習課題の解決のために、各時間の学習内容がどのように関係するかを意識させながら授業を展開していった。

3時間目は、日本の選挙制度の学習を行った。前時までの見方・考え方を生かして、複数の制度で投票を保障することにどのような意義があるのかを考えさせた。授業では、小選挙区制と比例代表制のそれぞれの当選方法に着目して、考察がなされた。その結果、習得した見方・考え方を生かした、

「2つの選挙制度を用意することにより、大切な民意を公正に反映させることができる。」「民主主義は国民の意見を反映させることが大切なので、様々な意見を取り入れると納得感が出る。」という意見が挙げられた。その後、クラス全体のまとめで、複数の投票方法があることにより、幅広い視点から民意を政治に反映して、公正な民主主義を営むことができる確率が高くなるメリットがあることを確認した。

4時間目は、政党があることにより、どのような良さがあるかを考えた。日本には複数の政党があるが、それぞれに主張の違いがあることについて生徒の理解は及んでいなかった。そのため、授業者から「インターネットを用いて、日本に存在する各政党の政策や主張を調べよう。」と指示し、調べ学習を行った。活動終了後、授業者から「各政党の政策や主張を踏まえて、政治家個人に投票するのと、政党を確かめて投票するのでは、どちらの方が投票しやすいか。」と発問した。生徒は、「政党を見た方が、なんとなくでもその人の考え、やってくれそうなことを把握しやすい。」「党に投票するという視点で考えれば、個人の細かい意見まで調べなくてもよい。だから、投票しやすい。」という意見が挙げられた。生徒の意見から、政党政治は、民主主義を支える選挙に参加しやすくなるということを確認できた。導入の見方・考え方を基に、民主主義を支える選挙に参加しやすい制度が整えられていることを意識させ、価値付けできた。

5時間目は、集団的自衛権に関して、新聞各社の意見が違うことは良いことなのかを学級全体で考えた。生徒は、新聞は情報を集めるのにとっても良いツールであると習ってきた。しかし、今回のように違いがあると間違った情報を受け取ってしまうと発言した。そこで、授業者から新聞各社にはそれぞれの立ち位置があることを伝え、「新聞各社の意見が違うことにより、国民にはどのような良いことがあるだろうか。」と発問した。生徒は、複数の意見を収集した上で、自分の意見を形成できること。選挙の際に、重要な情報源が複数ある方が、より広い角度や立場から意見を定めることができ、より良い民主主義を実現できるという良さがあることに気付いた。

6時間目は、日本の選挙における課題についてまとめた。生徒は、日ごろのニュースから若者の投票率の低下や一票の格差問題が起きていることを知っていた。また、近年指摘されるシルバー民主主義についても取り上げ、投票率の低下は投票しない人の権利を侵害する可能性がある行為であることを確認した。そこで、本時では民主主義をより良くするためにどのような考えを国民はもつべきなのかを考え、図3のような意見が出された。生徒は、



図1 作成したクラゲチャート

みんなの意見

- ・効率の悪さ=みんなんで議論したこと表れなので、必ずしも悪いとは言えない。
- ・間接民主制が効率と公正の面から良いと思った。全て正しいとは限らないけど、みんなが納得すればルールを守らと思う。みんなで決めたことには文句は言えない。多くの意見を取り入れれば納得する。ダメだったら変えられる。
- ・専制政治で1人で考えるのは効率が悪いし、安定しない。てか、1人では無理。不満も増える。たくさんの意見から考えることができれば、良い意見もあるかもしれない。たくさん意見がある=良い国だと思っし、平等や自由が守られる。
- ・良い面も悪い面もある。それはどんな政治制度でも一緒。国民の意見を聞いて、いろんな視点があつて効率悪いかもしれないけど、公正に決めた方がよい。デメリットもたくさんあるが、メリットも多い。デメリットを減らしていけばよい。

図2 クラス全体の意見

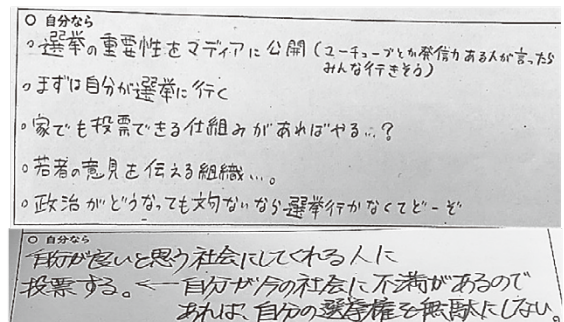


図3 生徒がワークシートに書いた意見

選挙の大切さや自ら政治に参加することの大切さに着目した記述を残している。生徒の意見を取り上げ、クラス全体で共有した。多くの生徒が選挙の重要性に気付いた。

③ 7時間目の様子

本時は、単元の学習課題の解決の時間である。生徒は、民主主義と選挙の関係について、単元の学習を通して、民主主義を支えるために、選挙で自らの意見を政治に反映させることが重要だと気付いている。単元の学習課題に対するまとめを行った後、パフォーマンス課題「18歳になった自分へ選挙に参加したいと思ってもらうメッセージを送ろう」に取り組んだ。手立て(2)の単元を通して学んだ成果を選挙に価値付ける場面である。ここでは、抽出生徒A～Dの意見を取り上げる。下線部において、民主主義のために、選挙に参加することの大切さを指摘している意見が見られる。これらは、単元を通して習得した、民主主義の見方・考え方を生かし、選挙に価値付けできている証左であろう。また、投票への参加を呼び掛け、政治を変えろという記述から、民主主義と選挙の関連に気づき、選挙への参加意識を高めている様子が見られる。

表2 抽出生徒A～Dのパフォーマンス課題の記述

<p>・生徒A：政治は自分の生活に深く関わるものです。<u>自分のしてほしいことを公約に掲げている人に投票すれば、その人が当選し、自分にとって良い政策をしてくれるかもしれません。もし、投票しなければ投票率の高い年齢層の意見が反映されて自分にとって良いことをしてくれないかもしれないので、自分のためにも選挙に行きましょう。</u></p> <p>・生徒B：<u>社会の一員として、政治に興味を持ち、参加してください。今の社会は、若者の投票率が高くありません。そうすると、公平ではなくなります。若者も授業料の保障や生活しやすい環境づくりのためにも投票に行こう。</u></p> <p>・生徒C：選挙には行ったほうが良いよ。<u>政治に関心がないだの、投票しても変わらないだの、そんなことを行っている間は自分の思いも届かないから。今の政治に満足しているのかな。ちがうよね。不満もあるよね。じゃあ、ちゃんと選挙に行って、自分達が見たいことをやってくれる人に票を入れて、政治を変えよう。</u></p> <p>・生徒D：18歳の自分へ言う。選挙に行こう。めんどくさいとか、行っても無駄とか思っていないだろうな。もし、1ミリでも思っているなら、14歳の自分を思い出してほしい。<u>そいつは、テストで点数をとることを目指して、必死に政治のことを勉強している。その中で、選挙のことを知って、政治の現状を知って、心底選挙の大切さと、行かないことの愚かさを知ったよ。自分にとって都合の悪い世界なら、自分で変えようぜ。絶対に、選挙に行けよ。</u></p>
--

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

本実践で、生徒は民主主義について習得した見方・考え方を生かして、選挙の重要性に気づき、選挙への参加意識を高めたのだろうか。抽出生徒A～Dの表1と表3の記述の変容から明らかにしたい。

まず、①の生徒A・Bの意見に注目したい。実践前は、「悪いところが分からない」、「今まで良いと習った」と無条件に民主主義を受容している様子が見られた。実践後には、下線部のように、民主主義を捉え直した。生徒は、意見を集約しやすいという良さに気付いた。設定した民主主義像に近づいたが、自らによる統治や公正という側面には、生徒の捉えが及ばなかった。また、生徒A・Bは選挙について、②の下線部のように述べている。生徒は、選挙をより良い政治を行うために、意見を届けることができる有用な制度であると気付いていることが分かる。実践を通して、設定した選挙像と概ね同様の意見に変容した。選挙について、実践前は、両名とも選挙には「興味がない」、「変わらない」と述べていたが、実践後には、選挙に対し、参加すべきであると意識が変容した。これらの変化から、民主主義に対する認識の深まりに差があっても、民主主義の価値を主体的に捉えることができれば、選挙への参加意識が高まること分かった。これは、民主主義を支える選挙は重要な制度だと認識したからだろうと考えられる。これらから、選挙への参加意識は高まったといえる。次に、①の生徒C・Dの意見に着目したい。実践前は、「自分たちのために政治を行える」、「話し合った方が納得できそう」と、概ね獲得してほしい民主主義像と近い考えをもっていた。実践後は、下線部のような意見をもった。生徒Cは「完璧ではない中で、最良の政治制度と思うことができた」、生徒Dは「意見をしっかり反映させることができる良い制度」と述べている。生徒Cは、説得力があると民主主義を評価した。これは、公正という側面から民主主義を評価していると考えられる。また、生徒Dは、国民自らによる統治が可能であると民主主義を評価したと考えられる。さらに、両名の下線部の意見は、意見の集約についても包含していると考えられる。よって、筆者の設定した民主主義像とまったく同様であるとは言えないが、類似した概念を獲得したといえるだろう。そこから、実践前よりも認識が深まったことが分かる。さらに、②に関しては、実践前は「今のままで十分」、「行こうと思わない」といった消極的な意見が見られた。実践後は、生徒C・Dともに、下線部の意見に変容した。特に、「民

民主主義の世の中では、意見を選挙で伝えることが良い、「政治を良いものにするために関わりたい」、「自分たちのことは自分たちで決めたい」、「選挙に行かないとだめだと思った」という記述からは、民主主義を支えるには、選挙に参加して、投票という権利を行使して、意見を政局に届ける必要があるということに気付いていることが分かる。この記述から、筆者の想定していた選挙像を獲得したと言える。生徒C・Dは、本実践を通して批判的に民主主義を考察して、民主主義の良さを捉えた。それにより、民主主義を支える選挙の重要性に気付き、選挙への参加意識を高めたと考えられる。

以上の結果から、抽出生徒A～Dは、各生徒に認識の差はあるが、民主主義について習得した見方・考え方を生かして、民主主義を捉え、選挙の重要性に気付くことができたといえるだろう。また、選挙への参加意識が高まったということも見取れる。どの生徒も、実践前よりは民主主義に対する考え方を自分なりの言葉でより詳しく表現することができている。これは、本実践の手立て(1)により、民主主義の考察が促されて、主体的に民主主義を捉えた成果であると考えられる。また、民主主義を捉えたからこそ、②の下線部のように、民主主義や自らの社会のために、選挙に参加したいという意識を高めたのだろう。これは、本実践の(2)の手立てにより、選挙に価値を見出したからだと考えられる。本実践で、民主主義の見方・考え方を生かして、選挙の重要性に気付くことができれば、選挙への参加意識を高めることができると明らかにできたと考えられる。これは、本実践の成果であるといえるだろう。

表3 民主主義と選挙についての意識調査(自由記述)

<p>① あなたは、民主主義を良いと思うか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒A：多くの政治制度の中で私は一番良いと思った。特に、多くの意見を活用し、より良い政治を作るのは合理的だと思った。 ・生徒B：いろいろな意見を集めて、より良い方向に政治を進めやすいから良いと思う。 ・生徒C：完璧な方法とは言えないことが分かったが、今までの政治体制の中で、一番説得力があり、良いと思うことができた。 ・生徒D：国民の意見をしっかりと反映させることができる良い制度だと改めて思った。
<p>② あなたは、将来選挙に行きたいと思うか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒A：若者が住みやすい社会にするには、自分みたいな若者が選挙に参加して、良い社会を築かないといけないと思うから。 ・生徒B：この学習を通して、日本を少しでも変えたいと思ったし、自分の一票で良い社会に変えられる可能性に気付いたから。 ・生徒C：民主主義の世の中では、意見を選挙で伝えるのが良いと思ったから。政治を良いものにするために関わりたい気持ちが増したから。 ・生徒D：学べば学ぶほど感じたのは、自分たちのことは、自分で決めたいということ。この世の中は、選挙に行かないとだめだと思った。

(2) 今後の課題

本研究で、抽出生徒の意識を選挙へ向けることはできた。一方で、クラス全体の生徒については分析し、明らかにできていない。そのため、どの程度まで効果的な実践なのか疑問が残る。抽出生徒だけでなく、より広い範囲の生徒に実践が適切であるかを明らかにし、研究を深めていくことが今後の課題である。その際には、本研究の成果を生かして、実践を行って明らかにしたい。また、参加意識を高めることはできたが、今後の投票行動に確実に繋がるかは不透明である。今後は、本実践で高めた選挙への参加意識を、確実に投票に繋げる実践を研究していく必要がある。

参考文献・註

- 1) 主権者教育推進会議「今後の主権者教育の推進に向けて(最終報告)」(令和3年3月31日), p.9。
https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_kyoiku02-000013640_1.pdf (2022年9月30日閲覧)
- 2) 同上, p.7。 https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_kyoiku02-000013640_1.pdf (2022年9月30日閲覧)
- 3) 二谷貞夫・和井田清司編『中等社会科教育の理論と実践』学問社, 2007年, p.152-153の実践を取り上げた。
- 4) 明治図書『教育科学社会科教育9月号』明治図書出版, 2019年, p.43。
- 5) 池上彰『政治のことよくわからないまま社会人になってしまった人へ』海竜社, 2008年。本書を参考にして、筆者が設定した。
- 6) 明治図書『教育科学社会科教育5月号』明治図書出版, 2021年, p.5-6。
- 7) 池上彰, 前掲書, p.24。本書で紹介されているチャーチル首相の「民主主義は最悪の政治体制だ」という言葉を引用した。
- 8) 以下, 本論で扱う生徒の著作物や写真については、管理職と生徒本人に掲載の許可を得て使用している。